

幕張サン・ハイツ自主防災会広報

No.3

幕張サン・ハイツ自主防災会 2016.7

備えよう！火災対策

殆どの火災は、私達が注意をすることで防げます。自分や家族の命を落したり、大切な財産を失うことがないよう、火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。

私たちの身のまわりには、出火の原因となる危ない物がたくさんあります。何が危険なのかを、まずはきちんと理解しておきましょう。

出火の原因となる危ない物

●たばこ

たばこの転倒・落下による火災、消したはずのたばこの再燃(寝たばこ)などにも要注意。

●コンロ

「ついうっかり」の消し忘れが危険です。揚げ物をしている途中にその場を離れた結果、火災が発生するケースが後を絶ちません。

●電気コード

コードを踏んだり、たばねたり、たこ足配線にするなどにより、コードが発熱して火災になります。コードのつなぎ放しやペットのコードかじりも危険です。

初期消火は出火直後に！

出火の現場に居合わせたときの行動

●行動1 〈通報〉

大声で「火事だ！」と叫ぼう。大きな声で叫び、隣近所に知らせる。
声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものでたたく。
どんなに小さな火事でも119番通報を。

●行動2 〈初期消火〉

出火直後が勝負。火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能。
備付消火器や風呂の残り湯、座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用しよう。

●行動3 〈避難〉

危険を感じたらすぐ避難。避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断。すみやかに避難行動を！。

火元別の消火方法を覚えておこう

●ストーブ



消火器は直接火元に向けて噴射。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消化器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

●電気器具



コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火する。泡消火器などは感電のおそれがあるので使用しないように。

●カーテン・ふすま・障子



カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要。火がついたら、引きちぎってから消火しよう。ふすまや障子などはけり倒し、足で踏んで消す。その後、水をしっかりかけて消火する。

●コンロ



油なべの場合、**水をかけるのは厳禁**。粉末消火器は鍋の全面を覆うように、強化液消火器は鍋のふちに向け噴射。消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断する。

■逃げるタイミングは天井の延焼

避難する目安は、天井まで火が燃え移った時。火が天井に燃え移るまでの間は初期消火に努めますが、もし炎が天井に燃え移ったら、決して自分で消火をしようとせず、迷わず避難をしてください。

住宅用火災警報器の設置

近年、全国的に住宅火災による死者が急増しています。特に犠牲者の方の大半が65歳をこえる高齢者となっております。就寝中に火災に遭遇することで発見が遅れ、逃げ遅れることが原因で犠牲者が発生するケースが増加の一途をたどっています。住宅用火災警報器を未設置の方は早急に設置をしましょう。

※先月の「戸別現況調査」の結果、消火器・住宅用火災警報器の設置をされていない世帯がまだ多いようです。千葉市の火災予防条例では、「キッチン」及び「寝室」は「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。火災事故が起きてからでは取り返しがつきません。早々のご準備をしましょう。